

【銅賞】

『お米のある毎日』

都城市立高崎小学校 3年 荒場 詩

二年前まで私のおじいちゃんが合がもを使って、無のう薬でお米を作っていました。合がもに草や虫を食べてもらうかわりに、かものお世話が大へんだったそうです。

米という漢字は八と十と八でできています。それは、八十八の期間がかかるという意味があるそうです。そんなきちょうなお米を食べることができて、幸せだと感じました。

以前、道徳のじゅぎょうで「日本のお米、世界のお米」を勉強しました。それまでお米は日本にしかないと思っていましたが、世界中で食べられていることをしり、おどろきました。世界には、いろんなしゅるいのお米があると、かいてありました。モザンビークのムカバッタ、ジャマイカのライスアンドピーズなど知らないよう理がたくさんあり、食べてみたいと思いました。日本でもごはんとして食べるだけでなく、日本酒、す、せんべい、あらねなどのざいりょうにもなっている、お米は、私たちの生活には、かかせない物です。そんなお米が世界中で食べられていると思うと「世界は一つだな。」と感じます。今、パンやめんるいなど、外国からのりよう理が多くなっていますが、お米も大切な食べ物だと思えます。わたしは、これからも、お米をたくさん食べて、世界とつながっているなあと感じたいです。